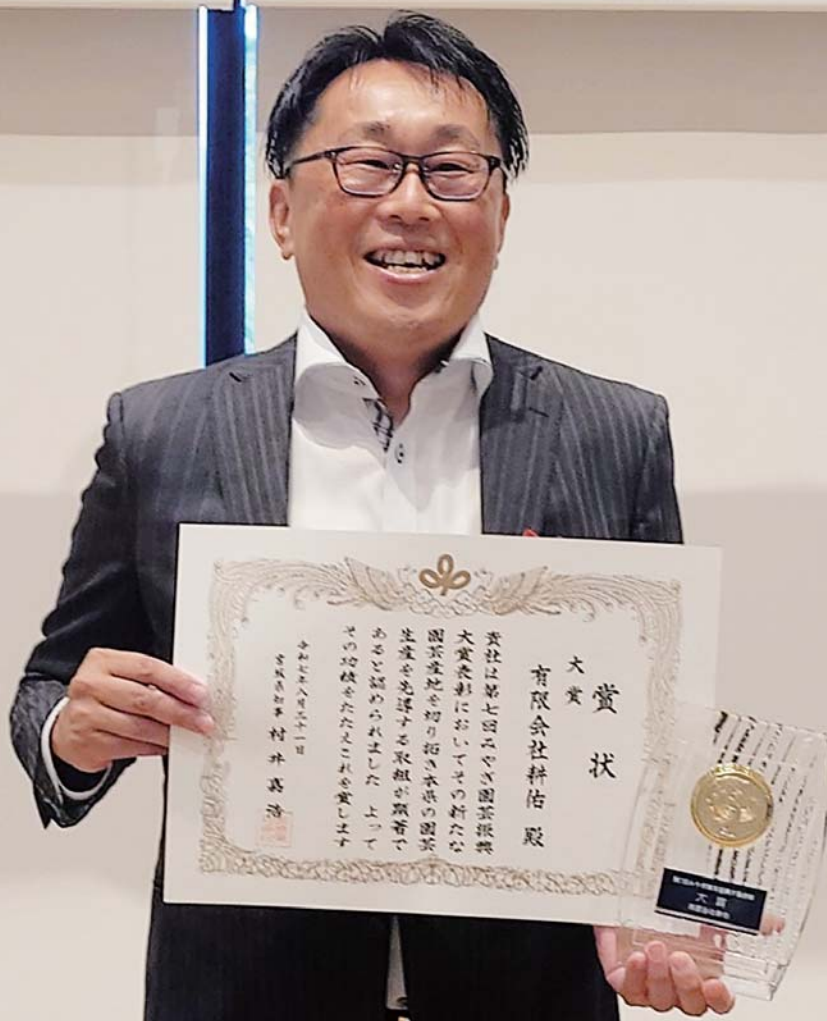


令和7年11月10日発行

栗原普及センターだより

「くりはら」 161号

有限会社 耕佑 代表取締役 伊藤秀太 氏



有限会社耕佑がみやぎ園芸振興大賞を受賞しました！

令和7年8月31日（日）に仙臺緑彩館で第7回みやぎ園芸振興大会が開催され、今年度のみやぎ園芸振興大賞を受賞した、栗原市一迫の有限会社耕佑に賞状と記念品が授与されました。

みやぎ園芸振興大賞表彰は、県が主催し、本県の園芸産出額の向上に寄与する取組を行っている団体等を称えることを目的として実施されています。

有限会社耕佑は、「心の郷（ふるさと）を耕す」という経営方針のもと、30年間にわたって葉菜類生産の手本となる法人経営を行い、県内の園芸産出額の増加に寄与してきたことや、近年は特定技能外国人の雇用や障がい者就労支援など、多様な人材が活躍できる環境づくりに取り組んでいることが評価され、今回の受賞となりました。

この度は誠にありがとうございます！

令和7年度水稻の生育経過および高温渇水の影響について

令和7年産の栗原管内における水稻作は、育苗期から田植え期にかけては、気温が高く日照にも恵まれたことから苗の生育は順調で、田植盛期は5月17日と平年並みとなりました。田植え直後は低温による活着遅れが見られ、その後も分げつの増加がやや緩慢となりました。生育全般をとおして、茎数は平年より少なく推移し、穂数はやや少なくなりました。出穂期から成熟期にかけての高温は生育を早め、出穂盛期は7月31日、成熟期は9月9日(7/31出穂のひとめぼれ)となりました。



また、登熟期間も高温の日が続いたことから、玄米品質への影響も心配されましたが、10月24日現在、「ひとめぼれ」を中心に白未熟粒等の発生も比較的少なく、品質はおおむね良好となっています。これは、十分な農業用水が確保できない状況下でも、「飽水管理」等による適切な管理が図られたことによるものと考えられます。

一方、堤やため池を水源としている地域では、6月以降に少雨傾向が続いたことから、生育に必要な水分が供給できず、登熟不良や不稔が発生するなど収量への影響がありました。



【渇水の影響で田面が乾燥したほ場(左)、葉先が枯れたほ場(右)】

金成有壁地区でねじりほんによコンテストが開催されました

金成有壁地区では、農地整備を契機に地域の活性化を図るため、令和2年に地域内外の人々との交流を深める地域活性化構想などが掲げられた「農村地域活性化ビジョン」が策定され、地元の「天水の郷有壁創生会」が推進母体となり活動しています。

令和7年9月13日(土)には、金成有壁地区で有壁創生会主催のねじりほんによコンテストが開催され、親子連れなど22人が参加しました。ねじりほんによとは、刈った稲束を天日乾燥させるため杭にらせん状に積み上げたもので、栗原市のマスコットキャラクターにもなっています。

当日は、有壁創生会のメンバーが事前に稲刈りと杭打ちして準備を行っており、参加者は稲束の積み上げ方の説明を受けてから、ねじりほんによづくりに取り組んでいました。その後、参加

者による投票が行われ、出来栄えが良かった入賞作品が決定されました。入賞者には後日、天日乾燥した新米が贈られることになっています。

普及センターでは、今後も有壁地区の地域活性化に向けた支援を行ってまいります。



【ねじりほんによコンテストの様子】

加工用トマトの契約栽培についてご紹介します

トマトジュース等の原料となる加工用トマトについて、カゴメ株式会社が生産者を募集しています。今年度、栗原管内の作付面積は約70a、計3経営体で生産が行われ、普及センターでは、カゴメ株式会社の栽培プログラムに基づき、カゴメ担当者と連携しながら施肥設計や病害虫防除などの指導を行いました。今年8月には収穫機による収穫作業が行われ、収穫された果実は

すぐに栃木工場へ運送されジュース原料として利用されました。

カゴメ株式会社の加工用トマトについては、大面積向けの機械収穫栽培と小面積向けの手取り栽培があり、生産者が面積に応じて選択できるようになっています。令和8年に向けて作付の希望やご相談がありましたら、カゴメ株式会社または普及センターまでご連絡ください。



宮城県のみなさん！生産者を募集しています！



カゴメ(株)のトマトを契約栽培しませんか？

■ 4つのメリット、初めてでも安心

1. 作付け前に単価が決定した全量契約栽培です。収入の安定♪
2. 4月～8月の短期勝負。夏場の収益を上げたい方向け。
3. 収穫機はカゴメから貸し出し。使い方もレクチャー！
4. 栽培指導あり！指導員がサポートします。

■ 募集条件 条件と一緒に確認します。ご興味ある方は、お気軽に相談ください！

- ① 26年8月1日～8月14日の期間に収穫可能な方
- ② 集荷所（10トントラック入庫可能なスペース）・フォークリフトを準備できる方
- ③ LINE、電話等で連絡可能な方
- ④ 圃場条件が、トマト栽培に適している方

年間栽培 スケジュール (例)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	カゴメ株式会社生産調達本部 野菜原料部 事務所宛て TEL:0287-36-6598 担当宛て(林) TEL:090-1758-2421
	ほ場 準備	定植	追肥 防除	追肥 防除	収穫 出荷	次作 準備	

栗原市農業女性のつどいを開催しました

令和7年7月15日(火)に栗原合同庁舎で、栗原市生活研究グループ連絡協議会の主催行事である「栗原市農業女性のつどい」が開催され、会員40人が参加しました。

講話では、宮城大学食産業学群の金内誠教授を講師に招き、「発酵食品の話～発酵の不思議と魅力」と題して、身近にある発酵食品や、発酵のメリット、味噌や醤油の健康効果など、発酵食品についてお話をいただきました。

グループ討論では、「家庭での発酵食品について」をテーマに、参加者を6つのグループに分け、金内教授も交えて講話の感想や家庭での食生活にどう活かしたいかなどを話し合い、発表を行いました。

参加者からは、「発酵が生活に沢山関わっていて驚いた。」や「発酵食品が身体に良いことを

学べてよかった。これからは発酵食品を積極的に食べたい。」などの声が聞かれました。

普及センターでは、今後も同協議会の活動を支援し、女性農業者の資質向上やネットワークの形成を図ってまいります。



【栗原農業女性のつどいの様子】



新たに認定された農業士の皆様を紹介します！

県では、優れた農業経営を実践して、地域農業の振興及び農村青少年等の育成に貢献している農業者を、指導農業士又は青年農業士として認定しています。今年度、栗原管内で認定された3人をご紹介します。



指導農業士 大場 孝太郎さん(栗原市若柳)

水稻と野菜(れんこん)栽培を主体とした農業経営を行い、れんこんは栗原市伊豆沼シンコン育成協議会に参加し、「伊豆沼れんこん」ブランドで出荷しています。令和3年度から青年農業士として活動いただきましたが、今年度からは指導農業士として引き続き活動していただきます。伊豆沼2工区地区農地整備事業の担い手として、事前・事後転作(WCS稲)の作業に従事したほか、地域からの要望等により農地を積極的に受託しています。



指導農業士 白鳥 一徳 さん(栗原市志波姫)

一戸一法人の株式会社宮城白鳥農場の代表取締役として、水稻、大豆の大規模土地利用型農業経営を行っています。水稻の省力化を図るため乾田直播や、みやぎ型RTKシステムを利用したスマート農業に取り組んでいます。令和5年度には「みどり認定」の宮城県第1号として認定を受けているほか、中干し期間の延長等によるJ-クレジットも活用しています。



青年農業士 白鳥 太郎さん(栗原市一迫)

一迫金田地区の中心的な担い手である有限会社川口グリーンセンターの水稻部部長として、水稻の生産から調製・出荷、在庫管理等の業務を担当しています。密苗技術や乾田直播栽培など、省力化技術の導入に意欲的に取り組んでいます。また、地域の若手担い手として、地域の農業経営に携わっている同年代との交流を図りながら、農業技術の習得と農業経営に取り組んでいます。

「輝け農業女子！機械セミナー」が開催されました

令和7年10月23日(木)に、栗原市一迫農村環境改善センター及び現地ほ場を会場として、「第1回輝け農業女子！機械セミナー」が開催されました。

このセミナーは、農業機械の安全な使い方を学び、実際の作業を体験することで、不慣れな機械作業への抵抗感の解消を図るため開催されたもので、女性農業者や新規就農者(男性を含む)など12人が参加しました。

当日は、クボタアグリサービス株式会社仙台担い手推進部の横田部長様を講師に、午前中は「機械の構造と安全な使い方(草刈り機・管理機の使い方とメンテナンス)」の講義、午後は草刈り機と管理機の操作実習が行われ、参加者は、講師に積極的に質問し、操作体験にも真剣に取り組むなど、終始熱心に学んでいました。



【機械セミナーの様子】

